韃靼勝敗記

三

特
へ13
2175
3

遠へ門
2175
3

韃靼勝敗記巻之三

○艾丹落城の事

艾丹の高名いち後ふ歟ありて毛色白なるざりしに羅金徳らきん毛係の疲討して都をく麻辣拔兒まらがが計策ふ落入都をさして攻りしかば喰喰客るるチ彷徨と飛り勢を纏めて麻辣拔兒まらがるとに攻るとへども城を要害堅固ふして寄上討くに出戰るるなくかくちりて防戦怠りるれば攻る度毎ふ兵を換ぎるのこうて未ど必勝の理を窺めざるる城中まい羅金徳らきんが敗をせーと呼てようおー恐怖のんお赤く人心匿くふ落てカへれ

い麻辣援兒まちいまなる今ぞ遼汗の彩るく而なりと味方の中分
拠別する逆兵二万余勝を勝り出して遼汗を援け疾く絡
まるく長くに引廻せる勢を下知して城の三方より
尺地あるなく押寄せ石火矢鉄炮を打掛攻るとも急
なる城中より大煩天炮を打出し防ぎ戦ひ寄せいる
頂死傷多し元来大軍なれば彩はと入習く
既に外廓の屏際をくずるに後陣の方より二三万騎
軍勢を清の護を指上て喇嘛王の陣よ寄掛り
久し難の後陣大こなるきなり防ぎ戦へども南ぐくもあり
ぐまび中を開く色〻より北来勢遠さび中陣へ攻掛り勇

と雲ひ見ともも打破り寄せの陣をとぐく切抜け城を
くぐぐ乗り城外向つく大音上らそ味りるひ見まて外
来より南城後搦て向へ羅金法らん方り行城
軍して那外の帝の逆鎌まく脱外一金をるるくもに
法天位の情をんて今て殺丈丹外郭を切をるば一命を
キよ及ぐび幸位安法れ遠あるくんと彩はの勢を勝り歪に
引廻に義を拠て難勢を切靡け彩のぐく勝利を得られば不
日よ歌の喝喇喝を るるに を付元難勢を長長んの殺ひ良
城中仏を安んで敵外力を合して大戦を逐らるくと味
ちりるまび城の重仲良 櫓より見を見て万陽られば

言葉かうこんるかれとも五傷を受て叔父羅金徳
を捨て敗軍の砲摩を受んと知る勇威を振ひ大軍を敗
南城を救ふ玉い雑組勢を対馬守と書きにあらべと大り
ようこんびれさせるもるぎ此部を若く城中勇を振ふ時一ゝ伺
是又雑組勢麻棘援兒なるが指揮を受て一度ゝ撞と押
ようこんびれ羅金徳らんくもあ死て防ぎ戦人麻棘援兒なる
天音ゝ下知して敵城ふ勢の加りしを見て味方ゝ
一ゝ攻付と羽扇を打振烈しく軍とをなさべ双方共ふ
爰で天ゝの軍ゝと一足も引を手強ゝ一強ゝなるまとを
挑て戦ふ城内重仲良 櫓より矢を射くる卒に下

知しく加勢の味方い定めて勇を奮ふんゝ雑の大勢組共
急ゝ押流れば羅金徳らんいう程勇を震ふとも叶ふ間
討く出く敵へして城門八文字ふ開き突出り此時麻棘
援兒なる計策の成不敗ハ今此時なりと打も刺しく攻急
ふ羅金徳らんを急く引しうる事ちまい味方を去方へ
誘ゝ引ハ城兵中を分て雑組勢ふ突へ大苑を義
して戦ふり羅金徳らんハ知して我ゝ勢を一ツゝ纏
め陣中へ進入と号しく大清の撰指揮をうるぐり拵西
の櫓ふ火と発ゝり城に残りし兵卒此体を見く大り
驚ろきなぐ此所彼西より雑ゝ戦ふ国ゝ為ゝ傷り去

る羅金法らきんが勢に城兵争う歌をくさ或を討き事ハ
近ぢ寄ひまゆ三者も寄りうり羅金法らきんが勢の半を
分て大よの城門を堅まい城中と兎ゐり双向ふ者ハ切例
女童ハ搦まより匠出さて城外ふい雑兵勢城兵と云ても刻く
切伏ぶ雑兵の軍師麻辣掖児ぐる歌ふ向つく大音上海ふ後
と者ぐぞや先ふ羅金法らきんと名乗しハ汝方の也一者ぐて
汝名を伝ー出ー城ハ不汝方の和と城ぐり何を語ぐり合
戦をぐる中と勢一同ふ笑ひる汝ハ城ハ重仲良ぐ後
と振ぞり櫓くの燈よるを見ぐ作天ー扱々麻辣掖児ぐるに
出ーめくまーり重ゆるよーや軍令ぐるとる重び城ふ入へ

て慶羅金法らきんと利遠へ城を拵よ討死して古を武士の本
を為まと云事に下知ー引ぐ遠ぐんとて味方と見まぐ大のを
雑ぐぐ人心今を分落ひ勇ぐ憂ぐと見へぐ遠く落ぐ
て勢僅ぐ残りぐる重仲良ぐ怒ぐ怒ぐる強弓ぐく
残ぐを集めぐく城門ぐく引ぐ出せぐ大ぐに焼残りぐる櫓の
上より慶の羅金法らきんが形りまを出城ハ重仲良ぐ敵く
形りまを敵ぐい軍師の下知を受ハ家勢の表ハとして城を
城外へ向出せーい皆深ぐり勢ぐーて不く討死せぐて大
音ふ呼ぐり弓鉄砲を打出ー寄ハ討ぐ宵ぐよりい雑の大勢
例のごく攻来る重仲良ぐ今い討死と見ぐ知ぐて

太清の忠臣艾丹の
城主孟仲良血戰
討死の図

タツミノ目

奈花一舞る敵の中へ突入く敵数十騎打死阿修羅王の
荒るごとく敵の中を竪横ふ廻ひふ辟易しを者も
者もなりしふ軍命の至るあるや行ふとも多く流矢来り
狗抜ふぐさと立る所を搦り降ぬ手まで遂搦り
落く死しなり雑組勢の中より主人去り寄て至仲良
良が首を打落しなく主人大音上文丹の大将蓋仲
良と討死なりと仲良ハ狗卒是を聞てあるいを
討又利遠へ乱軍の中に討死なくも主人も孤らぬ討死
なれば雑の勢一同ふ揚ふり城中よりも同じく緑
波の勢と合せ城門を開き出をへい皆城中に入く人馬の疲

労を休め軍師麻辣援兒を始めとして法力功ふ無ど
て悲歎と打ひ歩ふ嘆嘆を法力向ひ軍議ある
に麻辣援兒を呼出くやうるい君義を挙めしく分
降西い揚ち況不降り向ふ所敵なく既ふ北京第一の要地
なる文丹も今打もふ入しふい君の威光ふ恐まを支那雑
組平に敬ふる者なし と臣ども宮古悟独り清の弓組降地
の地ふまを見と敬ふ奪ひまんをを砕く城兵多力の及ん
丈け防戦もべし又小京ふり牡丹文も面厚ふるべし日を
延さば諸国の軍勢見をもふん待ある時い急ふ攻ふる
難ふるくられば歩ちる寄古悟へ攻寄ふば明日を後さで

[illegible]べしと申されば達嗽喇嘛ざらも驚く思惟して
[illegible]年[illegible]うり吉うぐう今[illegible]郭艾丹の女婿と語り数婿
[illegible]又支那雑記に欽する者ありしれども未だ民人掠う
なりざれば若も反人の者出来らい是[illegible]の戦場[illegible]か
らん御る君の軍師となる通婿は此度[illegible]郭婿
へも下知を伝へ民人を慢け是い[illegible]より討[illegible]向ひ
陽ざめつべし素八門下の勝を率て寧古塔に向ひ係
計をなすまよ入んと率るまば軍師麻辣拔兒も
計策を同じ軍後一変されば達嗽喇嘛ざらも八万の軍
勢を率て寧古塔を攻べしと云[illegible]

○北京英吉利不加勢を乞う事

咸豊三年六月不英吉利の[illegible]船一艘[illegible]を国掠く滑入今
既不艾丹を攻寄る彼く浪[illegible]して羅金[illegible]
[illegible]の[illegible]対をして却て事の破まる[illegible]
に迎[illegible]朝廷より諸[illegible]
[illegible]より[illegible]暴[illegible]
攻れ名自寧古塔不攻へ[illegible]
勢へ[illegible]して攻[illegible]
[illegible]のごく南北不[illegible]
何[illegible]

嘲して言を出者なかりしに欽差刑部張旭席を進みて
又云けるハ抑北狄防禦の要地ハ黒龍江寧古塔に續く
吉林遼陽なりなるに黒龍江ハ既に敵に奪われ今又
急に危きに至り難かるべし然る寧古塔吉林も急ぎ救ひ
の勢を出されずば久しく持堪へ難かるべし又内地にハ朱
天徳蔵を震ひ先に趙元宗の勇将を破りし
加勢を乞ふ是断る大敵にし我が寧古塔には一手の勇将を遣し
置きまし此方より戦ひを挑まば只北狄防禦の手当との逸
神へて朱天徳を先く征討ありて内地猛なるに迄
其小狄自ら平らぐ何ぞ恐るに足んと事もなげに述

なきバ人く是を聞て然しからんと安んじ居る孔平虜
向く曰く貴公申さるゝ所尤なれども趙元宗を助け
て朱天徳を討べき計策あるや否張旭答へて
陰案ずるに趙元宗ハ元より任ありて加勢の兵を遣
さんハ又寧海厦門虎門杏等を結し英将へ手後を開
合せ陸よりハ趙元宗ハ攻させ海よりハ黄河口より英
吉利勢とん攻るならバ元来徒党の勢の朱天徳を全て衰に救を
請るべ一滴りもあるべからずと言葉爽かに述る孔平虜も感
心し旅館へ退いて一変されバ寧海の英館へ使者をつかハし此
旨を申べし書付にて朱天徳南方洋国の大事を切報

けーゞ去年の時と違ひ日本注意受来(ら)て勇名
の空へある使節を交ぜ嚴海ぶ一ゝ仏蘭の退去を
帰ふる嚴海物と交て英吉利亟須陳留ちんを浸へ咸
豊三年八月四日北京を打立てそを急ぐ分仏英吉利と
定年和睦と和睦の後虎門厦門寧波の地を獨り高鉄
と築き平生に名士を重て雄志のちり嚴重なるゝ此内
地名乱起り園中鼎の沸ぐごとく騒がーえれば不意の乱
援あるゝを聞き名を指ー軍艦史蓋あるまでもなく
集め慧諸くゝ去嚴春を居く海岸ゝを砲り大和慶賈
怙えゝを寇流ゝ立てく虎門厦門ホの法高敏を指揮ー

要害ぶーゝ長くざりーに此日ホ来の使節嚴海亟緑
陳留ちんを手勢一ゝ仏蘭ゝて作浦より浸和数艘ホ打来
寧波ーて漕ぎーて英吉利の幸ん此勢を乃て大和慶賈怙
えゝふ彩と共ーゝ亟ちホ漕出を暴り和約所ち嚴海
ぐんゞ和弓ちく漕付る英吉利勢ちい歌の書くると既ち
大閤と敬さんとせーに大和慶賈怙えゝ制ー留めて歌和
を懸ふゝ去縛ゝ人へ殺ゝ軍艦ゝるく義ゝ寄ちゝ浸
渭あるべーー要害を固め亟ゝ事の也を乳同ーて後ホ打
拂べきものちゝ打拂へ浸く無効の拳動をあきゝ浸の
患と門出さんと呼を静めく約束ゝり嚴海ぐんい通知

陳留にて咸豊帝より英吉利
へ勅書の旨ありて陳源支那海
うに英率彩と文彩へ告ぐ慶賈法令を以て古率を下
知して兵器を收めしめ嚴海を通河
をくだりて内地に入る肉地ハ柔夷法令を起し蘭象ハ展
り又雜報ハ嗜爾嗜を
うるに四発立文武百官と名を軍務所を
一名と名同南糸の陸地を饒海の巡撫を命ぜ
夷國の兵を以て加勢として黄河により
勅旨をうけて速それば慶賈法令勅使の動靜ハ

それども下賤甲比丹等ハ少せ
暫時ハ猶予さるべしとて嚴海を
さしめ西ハ甲比丹數家を保護
勅役到来して加勢を元ふいで勅書すべきや是下者乃
思惟まうなく速べしとそれば率爾逸
てうるに我英吉利を支清の屬國とそ
者の好あるのを不京のあるを支清の
ろを支清の王威をろへ虚政を
を以て兵刃不ろを記る
内地を平呑さべき方へ加
それども速

ダッシ十

べ我國孫ごくの曰く我又思ふ亦今を清の威
義へ服ふの示ずるを知るとも四夷何ぞ廢さざ一旦勢を
示ひ加勢をるに義を弾ずと雖も遠く和一て変まべ都
督慶賈統とく我国を示ずるに對一思りるく又怒とも國
兵を高の好きのみなる事ども為国孫じくごや中ごとく加勢
せざんべ怪するを似ること後代を英國の砲撃とるるん行ふ
らべ此度の勢を意じて軍艦を出すべしと流儀一変て
嚴厳せいを元の席へ清一加勢の条承諾仕る又本國へも示
紙をんくやを送るべーたる多紙まて注書十六日なるべ二日
と約て十八日を約べ本國の大軍尚國より来るべー条ハ三

訪の勢を参めくに不日に英国より押寄んと勢言せーべ
嚴厳せいに大ふ怒へ別書を書て示条さーて帰りける
○諸元宗南宗を攻る事
天徳帝てんとくを南宗を立くに改と行ひ國中の海賊する
者を極育せーべ程よ海を渡ひ西境あの
巡極諸元宗てうぐんを天徳帝てんくを攻平万年の地ー
て海ごさたくうにーよ食戦利ちにて軍勢をくを失ひーべ
北宗より勢を元清くに南宗を押寄先敗の砲撃と言んと
大軍をて押寄ると雖ふ南宗より為くに敗ーるる赤大
元帥法武統地を量り寧國府を行文て戦ひ

と遁るゝ上ハ張道弘 是で今度の敵軍師張猿の首と
あらん軍師孫どのはしかるに未だ出来ず三方の勢を萬
へ向ひ勝向ハ謀叛なるべしと勇ましく述ければ張武將
らぶ陣中にハ人なく此の人も張道弘が望まし
陸地ぶらく則ち三方の勢をうちへく出張しむ張道弘
ろ三方の勢を指揮して寧国府よ陣を張く待所よ
趙元宗旧罰の兵を引率して出陣さして寧家
府よ東西の陣を備へしと聞て作戦を出して敵の陣立
を窺ひしむるよ三千斗の兵を並引續きて本陣
二ヶ所左よ二ヶ所後陣を遁れ引わり都合六所に備へし

と告しかバ趙元宗 是を聞て此軍法ハ我勢敵の先
陣に当りしが敵徐々に引退くへし勝に乗てをすぐに双方の
勢をもつて横合より突掛り組臨さん結構なれ独り我軍
勢の半を分て是を九に備へ一二三に突入へし敵徐て引退
くハ左右を顧ずして一文字に本陣をと打破るべし半の勢ハ
一列ね列ね後より押出すべし然ハ半に及ぶ時は是なるんで
都く敵を引包ミ力を尽して攻討ハ假令劉敵といふとも恐
るくに足らんと軍議を定めて押出しを待と得し蛇戦
し終まバ手ひに双戟を交へ皆し戦ふ処へ忽ち案に違
さて張道弘が先手纔く引退く趙元宗

採配打振るまわくくとかの紅まことに美しく彩りの僥倖勢富
こをんで遥るかれく攻付まべ法道弘ぐ勢に変所
に敵こく迎撃る元宗ぐ烈しく長てまべ本陣をく
迎来る計時法を弘ぐ採配を振て味方を推けば左右
陣小後へ引の長諸元宗ぐ勢よ寄て拠る諸元宗
も採配を振て後へと引つ分ちおしも怯まべ敵前に
後ろより分よ後へ僥倖勢法を弘ぐ勢を引色
んで討んとぐ法を弘ぐ大勢奉よ遠ーてをめく本を中
より浮出く寄て出かりは緩急多よ切立るまべ法を
弘ぐ指途を失ひ恐崩と成て本陣へなだれ逃る法を

弘ぐ歯切を噛るとも長よ大勢の孔を立るなと
して立走るの紙ぐ法を左ぐ苦本崩まて先るまべ諸
元宗ぐ機本奉く長て以一挙に南泉を攻落
逆賊の根を切と緩急多よ長付も港武龍りは張遠弘
ぐ出陣の沼まて諸物よ向ひ法を弘ぐは諸元
宗ぐ敗よにあくべふも敗軍まべ敵ぐんはあるく
くと鄭金徐達ふ二方の精兵をちへ後法として
駆りむあねをを急ぎて来る本よ法を弘ぐ敗軍
の兵よ分合軍師の作機を感ーつ多ち鄭金徐達
を二よ分まと味方の敗軍は中を色し後湾りる僥倖勢

の中へ面も振を付へうり請元宗も敵よ新よの如くり
る上へ出て対れうきを崇一よ不く軍を優め元の海丸へ
ゆりうる法を弘ちそあねの敵ひを滅く軍勝をもねね
に要ね亟そ分いよ勢ぞりと引連南京よゆり武能ふ
げおよ出く来所才ゆて切る大級を元上軍兵を多く
失ひ能万死小南る宜しく軍法を正しぬへ武能上の日
軍の勝敗いをの者なのいぞんよ掛ゆよ後日よ功をを
て優ひぬへ帝の庇新い来能よ恥亟べ一ぬ〜敗ゆり
休ぬ一ぬへと法道弘恐を謝してゆりる又鄭金
徐絶ふよへ皇国府よ陳を元軍師の出陣と防つ敵ね請元

宗も一旦しを勝利を得るとも岳ども洪武能ゆう智
傳を聞き玉よ陣所を固め日を経りる武能ぶも今
暫一後明用奏彩ゆる改ゆ小陳ろき彩ろきを敗のす
まぬと章ひとて戦ひを始まぬれば我も出陣をろきび敵討
紀紀の要心の下知を待へ射陣とろ一ろろ

○英吉利勢黄河口よ来る事

宋能ぬ皇海の英敏小使ち一義海ぞ日数を経て中宗
よゆり英吉利合体の旨妻細小勅言をれば咸豊帝
を交ちり備長大よ勇ろ英吉利加勢して黄河口淮安よ
押寄ば南京ろろび勢をかて黄河口よ向べ一南京軍

勢の減ずる時劉元宗並びに及ぶ又山西冷ぬの大
なる劉璋劉表同澤ぬの大尊曹寛ぬの大ぬの少弟ぬ大
義屋さ勇ぬ多まべ毛へも物役とぬん糜ど合せくぬ
陸こ方より撫こ付ちにせば朱天法しゅてんとぬ平ぐん
こと安くんとて別ち劉璋曹寛ぬの大ぬ物役
をきりさる宣海ぬ慶賈徳ぬ小系加露の都督ぬ
先けるゆをかぬへ弥へさせ事ぬまべ毛へゆを結つ道も
なく蕪ちぬ慶門虎門ぬ指揮して大軍艦二十八艘小
軍船三十二艘都合六十艘軍勢合して二万ぬ人へど
三ぬ不分け一ぬい常弁遠 大小軍艦十八艘軍勢八

千人大頭巾農白慶天施ぬ二百門一ぬい茲四孫大小
軍艦十八艘軍勢八ぬ人大員千二百門一ぬ都督慶
賈徳自ら一万九ぬ人大小軍艦二十四艘大員二千
門を従へ黄河にさして押寄る南京の軍師陳武能
ぬくも毛と知り天徳帝のおよ出く奏しるを
大戎英雄利山東小合体して承日ぬ黄河口小押寄る乃
貴と貴ぐ法ぬ渡安孫のぬ士勇猛なまどる軍勢
女ーぬ毛ぬ降参せーるちまべ内ぬも計りぐく孫子
陸方に寄ぐ軍艦の渡け毛弓矢の戦ひを勝利毛ぬけ
まべ山ぬ事伯王へ作結らまちば孫色角金の都とん

黄何口の戰ひ李伯玉謀て英国の軍艦と奪ふ図

歌を慶ふせんと欲ひうるべし、中ごろい天徳帝
花と同じ心ひ別書伯五りく〳〵ふ命せる書伯五りく〳〵形
儀し抑天羅りくん翟摸てきい赤と共ふ用ゑして天勢七方
所務うて英国の倭淮安ふ出給く陣を布き淮安城内
へも山部と亟ド亟書伯五りく味方の備ねを云して去
て曰く歌い航海の術ゑ美て海上の魚引自紀なまどを
上陸せばゑゑ三者臣」敵寄い陸ゑ立てい勇力あまども
海上ふ浸んでい味方の門ふ所航海ふ到る者あり
巻ゑ歌するゑ能ふまず独る刀我寄術をりく歌と亟亟
るい安ゑんゑ味方ふ軍艦ゑるんば敵の軍艦を急なくう

だひ入て後日の軍用ゑ海へん宝〳〵く歌を敷き上陸ゑ仕斤
端より生捕ゑく艦を奪ひゑん紙海ふ到る者を撃ゑ
半一ゑ〳〵て海へ亟却軍三ゑに多き蛾毒の落ゑ蛇形
の陣を張り毒傷ゑく〳〵の西洋流の大筒数千挺を仕ケ
給ふゑ英吉利勢い歌ふ先と紙まゑ〳〵と軍艦を漕連て黄
河ゑく抑来るにゑ書伯五りく〳〵ゑ陸より大筒を打掛〳〵ば
英吉利勢も同じく〳〵迎農臼砲ふを打掛まゑ毛来李伯
玉りく〳〵ゑ軍配ゑて蛇形ふ海へ〳〵陣ゑまゑば蛇矢の鏃なく
生ふ大煩を打掛海上ゑゑい陸くに艦を乗ゑ大煩を弾く
打ゑける書伯五りく〳〵時ふいゑ〳〵と味方ゑ下知を伝ゑまゑば

陣を親と引き連く英勢傳升あるを知らずして敢い大角み忍
まそ色ころぞ此時のよ上陸しして南京と高丘と勇をん
で漕家情紙を殺下しく我一みと上陸を此時李伯玉りくく
天を仰ぐ秘文を唱ふまび青天多ち雲じて五雲を中ち
元法く墨を流ちぐごく英勢い脚尺を多くねば都督慶
賈法くも大ふ落ちまども味方を動し大音ととて今紙
暗紙のごく天変あまぐも敢も亦同おちべし乗り船を
掛合をく敢と討と滅多無生に強ち不思議ちるる南
京勢い共しも此時へと知らで青天ちふ矣ちるくく
働きを自方り英勢の罵ちを吟て唱うんども悪軍とも

李氏りの妙術あるを考ふ変知ちる多方ちまび見ちん李氏り
の妙術ちうんと心妙指南を行李伯玉りくく先ち撫し統海
ふ細し者をして敢紙ふ楽撫らしめ脚紙い悪く大紙ち
深く遠の海上ふ色ちしめ又陸地の味方を麗き英勢に云
敢もちく切掛らしむるふ英辛い情敢ふ迫る心地して狼
狽ちり兵卒ふ整のミちちべふ戦へば同士討する者を多ちり
此戦ふ英勢大半討ち或ち逃走ふ溺ちあるひち
豪石ち彩を打破り周章するち大方ちて此時李伯玉
りくく又紙文を唱ちまび墨雲多ち吉く青天と表て英辛利
勢味方を顧まび大半討ち敢い信く勢ひ盛んふ切ちるに

ど大将慶賈徒らに大不敬を漢辺をさして逃せば士
卒皆ろ怪しみて皆一同に逃げり継ぎ来りんと云ふ
る不敬の和と称して遠の沖に浸水の接指動を押さり英
勢逢を失へば法よりの南京勢雲霧のごとく臣撤まべ法を
へ乗りたりなく徐方を乗て兎を狡奴付使駝を投出し系
拝謁貢して降を乞ふの形勢ちまち来陥玉りく発と乞く
来方を制し級戦を収めさせ自ら居竟のま勢をり奥英
勢ふる付逃何とかして多くの都督慶賈徒らに差くて云
ゆう我命元より天徳帝に対へ然ともなく又北京へ対
し悪まちこんどは比ひ系帝より加勢を乞ひ

法来逃南の時きあるとん一味し比黄河ほ押寄しちり
彩を発を免しあるで天徳帝に小二心ろく属しなまん
去ぬ〳〵比来て本国へ小京加勢の兵を中ちり〳〵比べ
不日ふ大軍とん攻め来らん是お陥ふ孫り亜し来紀今文
いんとも比べき中ち比べる男中国の軍艦海ふ来ろ時
我ふ比度免さる教悲れ命ま智く理解を怪き英ふ老く
天徳帝に小属しまちん中ちんとれべ来
伯玉是と少て先降系の宝例ちまべて弱者一方
弥人武器と悉く元上称天寵小二方の勢をかける
て南京ま差り軍の為作を奏せしめ我身い又方の勢を法

〈て奉び奉る英霊を渤げんと黄泉ふ左津を

難鞆勝敗記巻之三終

ダウニ二十